

特別講演 2

2020年東京オリンピック・ パラリンピック競技大会に向けて

座長／帝京平成大学／渡會公治

河野先生のお話はオリンピックなど歴史的なスポーツイベントを時計の文字盤に見立てた時間軸で並べるいつもの図から始まった。時計回りに回る近代の歴史の中にスポーツのイベントと歴史的な事件が散りばめられている。1936年ベルリンオリンピック、返上された1940年東京オリンピックの間には日中戦争があり、第二次世界大戦が続いている。1964年の東京オリンピック、1968年メキシコのあと、1970年大阪万博、1971年ニクソンショック、1972年ミュンヘン五輪とテロ、赤軍の事件などがあつた。1976年モントリオール、1980年モスクワ、1984年ロサンゼルスから現在へと話しは展開される。ときどき起こる戦争や経済的な事件がどんな意味を持っていたのかと図を見ながら、大きな立場からオリンピックを振り返り、来たる東京大会にむけての意義を考えさせられた。

そして、その東京オリンピック・パラリンピックに関係する組織の図がいくつも紹介され、もうすでに大会開催にあたりいくつかの法律の整備がなされ、スポーツ庁の新設など官庁の再編成が起こり、東京都の人事が発令され、新国立競技場のための工事が始まっている、明治神宮も関係して産業界、メディアなどいろいろな方面から東京オリンピックパラリンピックの準備が行われていることが紹介された。

2020年に向けて、非常に多岐にわたるビッグプロジェクトがすでに同時進行しているのであつた。その中央に日本スポーツ振興センターが存在していること、その理事長が河野先生であり、この複雑に関係して進行しているプロジェクトの中で河野先生でないと分からないこと、他では聞けないことを聞かせてもらった。そして河野先生が、我々が日本臨床スポーツ医学会の理事長でもあるということを考えると、我々もビッグプロジェクトの当事者であるという認識がわいてきた。1964年の東京五輪は日本を変えたが、2020年東京五輪は世界を変えるであろうという。ワクワクしてくる思いで聞かせていただいた。